

# 3サンハイツせけんぱな紙

第 46 号

令和7年9月1日

編集責任者

田島康弘 (3-101)

作成責任者

渡邊芳憲 (9-503)

編集委員

小松清明 (10-501)

## 団地内の野草

田島康弘 (3-101)

イヌホオズキ (犬酸漿)

別名 バカナス

この写真は2号棟の西側の道路(歩道)です。バカナスとされるのはホオズキやナスに似ているが役に立たないとされるからです。よく見るとこの写真の上の方に黒い実が一つついていきます。

夏にナスに似た花を咲かせ、そのあと緑色の実になり、それから黒くなります。

全草ジャガイモの芽と同じ有毒のソラニンを含むので食べられません。国によっては薬用や食用にするところもあるそうです。

花言葉は『嘘つき(きれいだが見べられない)と真実(乾燥させると薬用になる)』です。



## 9月行事予定

詳細はLLかもいけ138号に

- 1日(月) ◎鴨池小学校 始業式  
◎鴨池中学校 始業式
- 8日(月) ◎体幹トレーニング 11:00~12:00 鴨池生協クリニック5階 参加費:500円  
22日と同内容
- 9日(火) ◎火災予防の日(毎月9日)
- 10日(水) ◎鴨池校区ふれあい子育てサロン「いないいないばあ」10:00~(70~80分)真砂福祉館2階  
鴨池校区社会福祉協議会主催 対象児童:0歳~4歳児  
連絡先:坂口(☎090-3737-8005) 松崎(☎090-7383-2421)  
◎スマートフォン相談会(リモート相談)10:00~12:00  
要予約:8日午前中までに下記鴨コミュ事務局まで
- 13日(土) ◎地域食堂「鴨カムお結び」12:00~13:30(提供完了次第終了)鴨池校区公民館  
18歳以上/300円、18歳未満/200円、未就学児/無料
- 18日(木) ◎頭いきいき!音読塾 14:00~15:30 鴨池生協クリニック5階
- 22日(月) ◎体幹トレーニング 11:00~12:00 鴨池生協クリニック5階 参加費:500円  
8日と同内容
- 24日(水) ◎鴨かもサロン(体幹トレーニングの簡易版)10:00~11:20 参加費:100円  
鴨池生協クリニック1階フロア  
◎スマートフォン相談会(リモート相談)10:00~12:00  
要予約:22日午前中までに下記鴨コミュ事務局まで

医療生協主催行事申し込み先

担当者:片平のぞみさん

☎080-2739-3578

### 来月予告

- 4日(土) 戦後80年企画「僕の防空壕」10:00~11:30  
鴨池生協クリニック5階
- 9日(火) 第6回プティエコール「ボウリング交流会」10:00~(ゲーム終了次第解散)  
サンライトゾーン2階(東郡元町1-10)参加費:1500円(2ゲーム代+貸し靴代)
- 18日(土) かもいけ健康まつり13:30~16:30(飲食ブースは11:00オープン)  
今村総合病院中庭

### ★問い合わせ・申込み等

鴨池校区コミュニティ協議会事務局 ☎099-285-1522

(月・水・金曜日 9:00~12:00、火・木曜日 10:00~12:00、祝日は休み)

# 長崎で感じた二つのこと

田島康弘 (3-1-1)

## ■はじめに

8月2日(土)3日(日)4日(月)の3日間、長崎に行ってきました。地理教育研究会の全国大会が今年度は長崎市で開催されることになり、これに参加するためです。

2日は原爆と平和に関する講演や被爆者の話、それと原爆資料館の見学、3日は会員個人の研究発表、4日は諫早湾と雲仙普賢岳の現地見学でした。

この中で筆者は二つのことを特に強く感じましたので、このことについて今回はこの紙面で報告させていただきます。一つは「原爆(核兵器)」は過去のことでなく、あなたの“今とこれから”の問題なの“だということであり、もう一つは諫早湾の仕切られた内側の調整池が死につつあるという問題です。

## 1.原爆(核兵器)は今の問題

先に引用した文章は『長崎原爆資料館』と言う冊子のはじめのページで述べられている文章です。筆者はこの文章を初めて読んだとき、それまでは原爆投下は過去の問題だと考えていた。「はっ」とさせられ「その通りだ」とも思いました。

国連で核兵器禁止条約が結ばれ、被団協がノーベル平和賞を獲得したとはいえ、核兵器があるから平和が保たれているといういわゆる核抑止論が、特に大国の指導者の間でまかり通っています。でも、この考え方を打ち破って来つつあるものが、被爆者の人道的な(人間の命が一番大切なのではないですかという)運動であると筆者は信じています。

先の冊子の最後にも「原子雲の下で何が起きたのか、展示品の一つ一つ、その説明文とおして、原爆の悲惨さ、平和の尊さを学んでいただき、世界の人々と力を合わせて、核兵器のない平和な世界を実現していただくことを期待します」とあります。

## 2.調整池の死

有明海西部の諫早湾を干拓して農地を作る事業が進められていることはご存知かと思えます。図を見ていただくと、右側(東側)が有明海で



諫早湾干拓地地図

(干拓地—黄色、調整池—水色、有明海—淡黄色)

左側(西側)に見える土地が干拓地であり、中央の部分が調整池です。有明海と調整池との間には二つの排水門がありますが、これらの排水門は基本的に閉められています。また、防災のために調整池の水位をマイナス1mに保つことが必要とされており、中央部のポンプから1日10万m<sup>3</sup>の強

制排水が行なわれているそうです。

問題はこの調整池の水質がどんどん悪くなってきたという事です。案内者の説明では魚はおらず、残っている貝類もほとんどいなくなってきたという話でした。有明海と調整池の水の色が、私が堤防の上から見た時とはつきり違っていました。

自然(調整池)が死につつある。自然の死はやがて人間の死につながってくる。なぜこの対策を早急に取りたくないのだろうか。これがその時私が感じたことです。

排水門を開けることがこの有力な対策の一つとして考えられているようですが、農水省は今のところこれを行なう気はないようです。

## 3.埋没家屋—付け加え

以上が特に感じたことですが、もう一つ付け加えておきます。

それは、雲仙普賢岳の土石流で埋まってしまった数戸の家屋が保存されていて、災害のすごさを実際に見て感じる事ができるということです。

雲仙普賢岳の火山活動は1990年から1995年まで続きました。1991年6月3日に発生した火砕流で43名の方が亡くなったことを記憶されている方も多いと思われまます。

この間、大雨が降るごとに大規模な土石流も発生し、多くの家屋や畑が埋没しました。保存されている家屋が埋没したのは1992年8月の台風による大雨で発生した土石流によるものです。

桜島を抱える私たちも自然のすごさや恐ろしさを感じるためにも、一度は見学する価値があるのではないかと思います。

## 編集部から

「合成燃料の開発状況(II)」は次号とします